

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493600116	事業の開始年月日	平成21年6月1日
		指定年月日	平成21年6月1日
法人名	株式会社 エイジサービス		
事業所名	グループホームいずみ別荘2		
所在地	(245-0016) 横浜市泉区和泉町4888-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果 市町村受理日	令和6年12月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

いずみ別荘2でもっとも力を入れていることは「散歩」です。日の光を浴び、外気に触れ、風を感じ、四季を感じることはとても大事な時間と考えています。新型コロナウイルスの位置づけが5類感染症となりましたが、変わらずの感染症対策を行っております。面会に関しては、外での面会を実施しています。アスク着用と飲食の禁止をお願いし、距離や人数の制限は設けていません。一緒に近隣を散歩されたり、ベンチでゆっくりとした時間を過ごしていただいております。今後の状況をみながら面会の緩和をしていきたいと思っております。食事は栄養士の作成した献立を元に手作りにて提供し、ご入居者にもできるだけ手伝わっていただいております。食事のリクエスト等ある時は、職員が食材を用意し、リクエストに応えられるよう努めています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年11月21日	評価機関 評価決定日	令和5年12月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

JR「戸塚」駅・市営地下鉄ブルーライン「立場」駅より神奈中バス「池ノ上」バス停で下車し徒歩4分ほどのところに立地しています。法人は複数のグループホームを展開しています。

<優れている点>

事業所理念にもある、地域資源をいかしながら笑顔で過ごせるホームを目指し、日々の支援に取り組んでいます。毎日の散歩を大事なものとして欠かさず行い、利用者の「気持ちいいね」の言葉と笑顔につながっています。法人の意向による人員体制の変化にも、職員全員で対応策を話し合い、「夜勤帯職員の業務時間が終わる前の人手が足りるわずかな時間」を活用し継続して実施しています。ユニット事務室に掲示する散歩表でその日に散歩した人が一目で分かるようにしています。毎日の散歩は気持ち良さだけでなく、下肢筋力アップによる自立排泄や、不穏症状の減少にもなっています。業務優先を選択せず、「利用者に笑顔になってもらう事」を選ぶことが事業所の統一したケアになっています。

<工夫点>

入浴後の皮膚軟膏塗布処置時に、痣や傷等の確認をしています。傷や痣を発見した際には申し送りノートの「傷等などの気付き」に記入し、ユニットタブレットで患部の写真を残しています。表現に個人差が出る文章による報告書ではなく、画像を医師に見てもらおう事で、時間の経過による症状を確認することができ、病気やケガの早期発見に繋がっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームいずみ別荘 2
ユニット名	つる

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		✓	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		✓	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		✓	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		✓	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		✓	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		✓	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ご入居者を中心に周りも満足感を得られるよう、ユニット会議で確認等し、玄関、各事務所に掲示し、周知共有に繋げている。	職員と一緒に作った理念を日々の支援に反映しています。利用者一人ひとりができることを考え職員は行動しています。おやつの際の飲み物も自分で何が飲みたいか選択し、キッチンまで自分で取りに行っています。職員は体制変更時にも「利用者の笑顔」に立ち返り、奪わない支援を行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会への加入。コロナの影響でイベント等への参加は控えているが、近隣散歩などで、地域の方との交流がある。	感染症に留意し、リスクの低い外出に絞って出かけています。近隣のミカン農園のミカン狩りに家族も参加し、利用者や家族の笑顔につなげています。感染リスクの低い近所の散歩を毎日行っています。挨拶を交わすことで、地域にグループホームがあることを知ってもらえています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの為、積極的な地域貢献はできていないが、コロナ以前は避難訓練への参加や、地域の催しに参加し、認知症への理解を深めていただくよう交流していた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回の会議に地域ケアプラザ、ご家族へ参加を促し、ホームの活動や事故を報告とともに、意見要望をいただき、サービス向上につながるよ努めている。	家族や地域包括支援センター職員、泉区役所職員も参加しています。区や地域包括支援センターから情報を得ています。家族も行政の話が直接聞ける機会となっています。運営推進会議の中で身体拘束適正化委員も行き、第三者の意見を聞き支援に反映しています。	今後は他職種の構成員の参加より、客観的、専門的意見を聴ける会議を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営や業務等で不明な点は担当部署に相談するよう心掛けている。また運営推進会議への出席や手続きの際に相談するようにしている。	区役所職員の運営推進会議参加時に相談をしています。「横浜市内で泉区が1番インフルエンザ感染者数が多い」などの情報を得ています。「コロナ5類移行し今後も抗原検査キットは配布してもらえるのか」などの質問にも「必要時に相談して貰えれば」などの答えをもらうなど、随時確認と連携ができる体制となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	ユニット会議にて、「身体拘束」について、具体的な例や正しい理解を学んでもらい、職員間で相互確認をしながら、スタッフの理解を得るまで話し合い、身体拘束のないケアに努めています。	ベッドからの転倒リスクが高い利用者の身体拘束をしない方法についてなど、具体的事案について話し合いをしています。その対策として、リスク回避のため床に布団を敷いた場合、起き上がり介助時の女性スタッフへの負担をどうするかなど建設的な話し合いをしています。対応後のモニタリングで転倒リスクが低くなった時には再度ベッドで寝てもらうなど一人ひとりに対応した支援に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ユニット会議にて、なにが虐待にあたるのかを職員間で確認し話し合っている。日々のケアでは職員間での相互確認を意識しながら行うことで意識のない虐待を防止するよう努めている。	虐待をしない対応については「知識」が必要と考えています。スピーチロックについて、「言い方一つ」、「言い回し」で利用者への伝わり方が違うとコミュニケーションの大切さを職員に伝えていきます。厚生労働省発出の高齢者虐待防止に関わる一斉点検も行い、意識を高めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度について対象者はおらず後回しになりがちの為、今後学ぶ機会を持ちたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学の場、契約の終結、改定の際には、十分な説明とご理解を頂いてから契約や改定を行い、一切の不安がないよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議への参加を促し、意見要望を伺い、サービスへ反映している。今後、面会の緩和に伴い、来荘の機会が増えることが予想される為、玄関に意見箱等設置し、気軽に意見要望苦情を聞ける環境を作り、利用者は関わりの中で汲み取るよう努めている。	SNSアプリを使用した日常の連絡時や、意見箱、運営推進会議の中から意見や要望を聞いています。「家族も参加できる企画をして欲しい」との要望には、感染症リスクについて職員と話し合い実施しています。近隣へのミカン狩りに家族も一緒に出かけています。要望を直接聞くことで家族の感情も汲める大切な機会と捉えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議にて、個々の意見を気軽に言える環境を整え、活発的な意見交換できる場を作っている。個々の悩みや不安がある時は電話やメッセージ、面談等で個々に対応を行っている。	会議や日常の中で意見が言いやすい環境を作っています。法人の意向により3人体制から2人体制に替わり、毎日の散歩に行く時間の捻出が難しくなった場合にも、職員全員的一致により、散歩は無くさない決めてしています。3時間のユニット会議でケアについて、物品についてなど多岐にわたり職員で意見を出し合い運営に反映しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各スタッフの努力や実績は毎月本社で行われる会議にて報告している。また、オーナー面談を行い、管理者の管轄外で意見が言える場も設けている。	業務の悩みなど不安な事をホーム長に直接相談できる環境を整えています。日頃からのコミュニケーションを大事に話を聴いています。リーダーやケアマネジャーに相談が来た場合にはホーム長に伝え、すぐに対応し悩みを傾聴することで不安なく働けるように努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	未経験のスタッフには本人が自身を持てるまで、介護現場や業務、入居者の特性等に慣れる為の研修を行っている。外部研修で学んだ際には、内部研修を行い、ホーム全体で共有できるよう努めている。	内部研修を行っています。認知症ケアの基礎知識の中で、「認知症の方とのコミュニケーション方法」を学び、言語ではなく、準言語（声の大きさ、強弱、抑揚、話す速度など）や非言語（距離、姿勢、態度、表情）について学ぶ機会を作りケアの質の向上に努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の為、他事業所との交流は控えているが、同法人内の事業所とは月に一回意見交換できる場を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人との関わり合いの中で、不安や要望を汲み取れるよう、傾聴の時間を多くとり、信頼関係が作れるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前、契約時にご家族からの要望を伺い、ケアプランやサービスに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	契約前にある程度伺い、その対応を契約時に確認し、初期の対応をスムーズに行えるよう務めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活がマイペースに過ごせる様、その方の好きな事出来る事や生活リズムを把握し、掃除や食事作り、レクリエーションを他入居者と共に行うことで、良い関係性を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	状況状態の変化があれば、電話やLINEにて報告し、今後の対応策を一緒に考えるよう取り組み、共に支えあう関係作りに努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会や電話、手紙や年賀状を通じて、馴染みの方との関係が途切れない様支援しています。	コロナ禍により馴染みの場所に行くことが難しくなっていますが、敬老の日の行事食は横浜で有名なシュウマイ弁当にしています。感染症リスクが高い環境の中でできること、利用に喜んでもらえる事を念頭に考えています。友人からかかってきた電話の取り次ぎの際、筋力低下の人に受話器を支えることで友人との交流が継続できるようにするなど、細やかな支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者間の人間関係に配慮し、座席の位置を考えている。なるべく利用者同士でできるお手伝いをお願いし、気軽に会話しながら行える環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、家族からの相談はもちろん、状況に応じ、こちらからも連絡をとり、相談に応じるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時には、以前のケアマネ等からの情報を受けながら、本人や家族からの意向や要望を聞き、把握に努めている。入居後は日々の生活での言動など、記録しながら皆で話し合い、本人の思いを反映できるよう努めている。	伝えたい事を上手く言葉にできずに混乱してしまう時などは、表情や動作を見極めるなど、利用者の様子を日常から職員間で共有しています。共同生活の中、遠慮せずもっとやりたい事を言ってもらえるよう今以上に信頼関係の構築を努めています。家族に会ったことを忘れてしまい不安症状が出た人に、面会時の動画や家族の画像を見てもらい安心してもらおう事もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に本人や家族、以前のケアマネ等から確認し、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の中から、心身状態の把握に努め、毎回のユニット会議で健康管理や残存機能の確認をおこなうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居時は本人や家族からの要望を元に最初の介護計画を作成し、入居後は日々の生活を把握し、ユニット会議にて意向や要望を元に検討を行い、その結果を家族に確認してもらってから、サービスを行っている。	入居前に本人、家族の要望を聞いています。事業所で生活を始めてからの現状把握による変更も加味しています。ユニット会議内で職員が話し合いケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活記録を行い、皆で観覧、周知できるようにしている。申し送りやユニット会議にてスタッフの思いや気づきが反映できるよう話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ禍になり、タブレットを導入し、オンライン面会やリモート面談、など、その時のニーズに対応できるよう、柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の為、イベント等に積極的な参加は自粛しているが、自治体に参加し、回覧板などで近隣の情報を得たり、散歩の際に近隣のかたとコミュニケーションをとるようにしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人と家族の意向を尊重し、事業所+事業所担当医+かかりつけ医との連携を大切にし、心身にいい影響があり、適切な医療がうけられるよう支援している。	痣や傷等を発見した時はタブレットで画像を取り、提携医に確認し早期に病気が発見できる体制を整えています。訪問医以外の通院には家族の他、職員も立ち合い、日々の症状を医師に伝えることで適切な処置につなげています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	担当病院と訪問看護それぞれの看護師へ必要に応じて報告、相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室+家族と密に連絡をとり情報交換することで、3者面談や退院の相談にスムーズに対応できるよう努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にターミナルケアについての説明をしている。重度化した時は、担当医+家族+施設で話し合いを行い、希望される方には看取りケアを行っている。看取りケアの流れもその都度担当医に確認がとれる連携体制をとっている。	利用者のターミナルケアとして、月2回の訪問診療を受けています。状態変化の時は、病院で家族も含め三者面談で説明を受けています。看取りケアの流れは家族との相談の上、同意書を取り交わし、担当医に確認しながら連携を取っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	新人スタッフでも急変時や事故発生時に対応できるようフローチャートを作成している。定期的に内部研修や訪問看護師からの指導を受けている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に日中、夜間の災害を想定した避難訓練を行っている。コロナ禍以前は消防や近隣の方との共同訓練を行っていたが、コロナ禍になり避難計画書を消防に確認してもらい、独自で行っている。	夜間想定避難訓練を夜間専従職員を予定しています。夜勤勤務者明けの9時～9時30分の間に行うことで実施可能となっています。受信機の消し方、スプリンクラー、止水栓、赤電話の確認、フロアポイント誘導など、万が一に備えて訓練する予定です。	食品備蓄以外にもリストを作成し、職員に周知する事を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会話時は視線を合わせる等、準言語、非言語の大切さを心掛けている。職員同士で相互確認するよう努めている。希望があれば、入浴時の同性介助を行っている。	会話時は言語だけでなく準言語や非言語にも気をつけて不快な思いにならないように気をつけています。希望者には入浴時や排泄時にも同性介助を行っています。居室に入る時には必ず声かけをしています。自立排泄後の尿便報告を嫌がる人には無理強いせず、便臭などで確認しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が決めたことを押し付けるようなことはせず、思いを傾聴することを心掛けている。選択肢を伝えたりし、なるべく自己決定できるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	マイペースに生活できるよう、個々に合わせたペースを大切にしている。なにげない会話の中で本人の希望を拾えるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日の整容をかかさないう支援している。毎日の衣類に関しては職員と一緒に選んだり、アドバイスしたりで自己決定できるよう支援しています。定期的な訪問理美容を手配し、それぞれのおしゃれができるよう支援しています。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご飯作り、盛り付け等、準備を一緒にしながら、栄養士が考えた献立を手作りにて召し上がっていただいている。ミキサー食の方も食事によっては刻みにしたりし、食感を味わっていただけるよう支援している。	施設を連想させるプラスチック食器は使用せず、家庭的な雰囲気食事が楽しめるように陶器の食器で盛り付けています。全介助の人にも自身で箸を持ってもらう事で食事時間を認識して貰っています。食器洗いや下膳も参加し、できることは皆で行っています。ミキサー食の人に食感を味わってもらえるように、攪拌を秒単位での調整でしています。その日の体調に合わせて毎日トロミ加減も変えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量は摂取分すべてタブレットに記録し管理しています。食事量が摂れなくなってきた方には主治医と相談し、栄養補助食品等を併用したりし、一人一人の状態に応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケア、毎晩のポリドントによる義歯洗浄行っています。毎月の訪問歯科医による状態把握と指導をいただき、個々に応じた支援をしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	タブレット内に排泄の記録をし、それぞれの排泄パターンを把握するよう努め、それぞれの排泄支援に繋がっている。排泄を拒否される方には、時間を空けたり、職員を変えたり、気分が変わってから声をかけたりと工夫し支援している。	自立排泄できるように支援しています。尿便の報告を嫌がる人には無理強いせず、トイレの開閉時に流れるセンサーの音楽でタイミングを判断し便臭などで確認をしています。センサーの音は30種類ある中、利用者が不快にならない音楽を職員で話し合い決めています。排泄チェック表だけでなく、訪問医による腸の診断も行い下剤を処方しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄に関する記録から日々の排便状況や水分摂取量を把握し、オリゴ糖や、乳酸菌の摂取を促し、毎日の運動や体操、散歩の機会を作るよう努め、主治医との相談で下剤等を使い、個々に応じた対応をとっています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調確認後、一人約30分程度の入浴時間を設けています。あらかじめこちらで順番を決めていますが、希望があったら順番を変えるなどし調整しています。全介助の方には二人対応で、看取りの方には清拭でと個々に応じた支援をしています。	一人ひとりに合わせた入浴支援をしています。長時間の入浴で疲れやすい人には自尊心に配慮し一部介助で負担を和らげたり、全介助の人には必ず2名対応で安心に入浴できるように行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活リズムやペースを把握し、活動と休息の促しをしています。起床時間はその時々で違う対応がとれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	それぞれの処方箋をファイリングし、すぐわかるようにしています。内服薬の変更があった時には、考えられる副作用を主治医に聞き、職員全体で周知するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居前の生活習慣や趣味等を把握し、運動や脳トレ、食事作りや洗濯たたみ等それぞれに合う支援ができるよう努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症全般が広がっている為、積極的な外出は控えていますが、毎日の散歩に加え、外での面会を行っています。家族や友人と近隣を散歩したり、ベンチ等でゆっくりした時間がとれるよう支援しています。	感染症が流行している中でも、毎日の日課として散歩に出かけています。夜勤職員もいるわずかな時間帯を工夫し、朝食、投薬後に15分から30分ほど散歩に出かけています。また、今でも家族や友人との面会時には近隣の散歩や、広めの敷地内のベンチでゆっくりとした時間を取ってもらっています	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にはホーム立替で支払いをしています。本人や家族の希望がある方や、持つことで安心される方は家族の同意の元所持していただき、見守るよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があればいつでも家族や友人と電話できるよう支援しています。タブレットを使用したテレビ電話も用意しています。毎年年賀状を出せるよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間で、それぞれの関係性を把握し、リラックスし落ち着いた生活が送れるよう食席を決め、居心地よく過ごせるよう努めています。温湿度チェックを行いながら、感染対策として換気も行っています。	生活音や見守りの職員がいて安心できるフロアで過ごしている利用者が多くいます。共同生活の中で不快に感じることはないように、リラックスし落ち着いた生活が送れる様にフロアの配席を決めています。現在使用していない和室を整理し、家族との面談や共有室にできるよう企画をしています。朝の連続テレビ小説ドラマをみんなで観ています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビやソファ、テーブルや椅子等の配置に気を配り、共有空間の中で一人になれる空間ができるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、新しいものではなく、使い慣れた馴染みのある物を持っていただく様お願いしている。入居前の空間と遜色ないよう、本人にとって居心地のいい場所になるよう支援しています。	入居時期の差で居室からの景観が違う入居者同士、部屋を行き来する利用者もいます。富士山が見える部屋を尋ねることで楽しい会話が生まれるなど、一人ひとり居心地の良い空間となるようにしています。居室の清掃は毎日の日課の中で自分で行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	毎日手すり等の消毒、導線や車椅子のチェックを行い、それぞれの出来る事を安全に出来るよう支援しています。		

事業所名	グループホームいずみ別荘 2
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		✓	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		✓	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		✓	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		✓	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		✓	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		✓	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ご入居者を中心に周りも満足感を得られるよう、ユニット会議で確認等し、玄関、各事務所に掲示し、周知共有に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会への加入。コロナの影響でイベント等への参加は控えているが、近隣散歩などで、地域の方との交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの為、積極的な地域貢献はできていないが、コロナ以前は避難訓練への参加や、地域の催しに参加し、認知症への理解を深めていただくよう交流していた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回の会議に地域ケアプラザ、ご家族へ参加を促し、ホームの活動や事故を報告とともに、意見要望をいただき、サービス向上につながるよ努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営や業務等で不明な点は担当部署に相談するよう心掛けている。また運営推進会議への出席や手続きの際に相談するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	ユニット会議にて、「身体拘束」について、具体的な例や正しい理解を学んでもらい、職員間で相互確認をしながら、スタッフの理解を得るまで話し合い、身体拘束のないケアに努めています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ユニット会議にて、なにが虐待にあたるのかを職員間で確認し話し合っている。日々のケアでは職員間での相互確認を意識しながら行うことで意識のない虐待を防止するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度について対象者はおらず後回しになりがちの為、今後学ぶ機会を持ちたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学の場合、契約の終結、改定の際には、十分な説明とご理解を頂いてから契約や改定を行い、一切の不安がないよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議への参加を促し、意見要望を伺い、サービスへ反映している。今後、面会の緩和に伴い、来荘の機会が増えることが予想される為、玄関に意見箱等設置し、気軽に意見要望苦情を聞ける環境を作り、利用者は関わりの中で汲み取るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議にて、個々の意見を気軽に言える環境を整え、活発的な意見交換できる場を作っている。個々の悩みや不安がある時は電話やメッセージ、面談等で個々に対応を行っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各スタッフの努力や実績は毎月本社で行われる会議にて報告している。また、オーナー面談を行い、管理者の管轄外で意見が言える場も設けている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	未経験のスタッフには本人が自身を持てるまで、介護現場や業務、入居者の特性等に慣れる為の研修を行っている。外部研修で学んだ際には、内部研修を行い、ホーム全体で共有できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の為、他事業所との交流は控えているが、同法人内の事業所とは月に一回意見交換できる場を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人との関わり合いの中で、不安や要望を汲み取れるよう、傾聴の時間を多くとり、信頼関係が作れるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前、契約時にご家族からの要望を伺い、ケアプランやサービスに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	契約前にある程度伺い、その対応を契約時に確認し、初期の対応をスムーズに行えるよう務めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活がマイペースに過ごせる様、その方の好きな事出来る事や生活リズムを把握し、掃除や食事作り、レクリエーションを他入居者と共に行うことで、良い関係性を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	状況状態の変化があれば、電話やLINEにて報告し、今後の対応策を一緒に考えるよう取り組み、共に支えあう関係作りに努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会や電話、手紙や年賀状を通じて、馴染みの方との関係が途切れない様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者間の人間関係に配慮し、座席の位置を考えている。なるべく利用者同士でできるお手伝いをお願いし、気軽に会話しながら行える環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、家族からの相談はもちろん、状況に応じ、こちらからも連絡をとり、相談に応じるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時には、以前のケアマネ等からの情報を受けながら、本人や家族からの意向や要望を聞き、把握に努めている。入居後は日々の生活での言動など、記録しながら皆で話し合い、本人の思いを反映できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に本人や家族、以前のケアマネ等から確認し、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の中から、心身状態の把握に努め、毎回のユニット会議で健康管理や残存機能の確認をおこなうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居時は本人や家族からの要望を元に最初の介護計画を作成し、入居後は日々の生活を把握し、ユニット会議にて意向や要望を元に検討を行い、その結果を家族に確認してもらってから、サービスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活記録を行い、皆で観覧、周知できるようにしている。申し送りやユニット会議にてスタッフの思いや気づきが反映できるよう話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ禍になり、タブレットを導入し、オンライン面会やリモート面談、など、その時のニーズに対応できるよう、柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の為、イベント等に積極的な参加は自粛しているが、自治体に参加し、回覧板などで近隣の情報を得たり、散歩の際に近隣のかたとコミュニケーションをとるようにしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人と家族の意向を尊重し、事業所+事業所担当医+かかりつけ医との連携を大切にし、心身にいい影響があり、適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	担当病院と訪問看護それぞれの看護師へ必要に応じて報告、相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室+家族と密に連絡をとり情報交換することで、3者面談や退院の相談にスムーズに対応できるよう努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にターミナルケアについての説明をしている。重度化した時は、担当医+家族+施設で話し合いを行い、希望される方には看取りケアを行っている。看取りケアの流れもその都度担当医に確認がとれる連携体制をとっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	新人スタッフでも急変時や事故発生時に対応できるようフローチャートを作成している。定期的に内部研修や訪問看護師からの指導を受けている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に日中、夜間の災害を想定した避難訓練を行っている。コロナ禍以前は消防や近隣の方との共同訓練を行っていたが、コロナ禍になり避難計画書を消防に確認してもらい、独自で行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会話時は目線を合わせる等、準言語、非言語の大切さを心掛けている。職員同士で相互確認するよう努めている。希望があれば、入浴時の同性介助を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が決めたことを押し付けるようなことはせず、思いを傾聴することを心掛けている。選択肢を伝えたりし、なるべく自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	マイペースに生活できるよう、個々に合わせたペースを大切にしている。なにげない会話の中で本人の希望を拾えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日の整容をかかさないう支援している。毎日の衣類に関しては職員と一緒に選んだり、アドバイスしたりで自己決定できるよう支援しています。定期的な訪問理美容を手配し、それぞれのおしゃれができるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご飯作り、盛り付け等、準備を一緒にしながら、栄養士が考えた献立を手作りにて召し上がっていただいている。ミキサー食の方も食事によっては刻みにしたりし、食感を味わっていただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量は摂取分すべてタブレットに記録し管理しています。食事量が摂れなくなってきた方には主治医と相談し、栄養補助食品等を併用したりし、一人一人の状態に応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケア、毎晩のポリデントによる義歯洗浄行っています。毎月の訪問歯科医による状態把握と指導をいただき、個々に応じた支援をしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	タブレット内に排泄の記録をし、それぞれの排泄パターンを把握するよう努め、それぞれの排泄支援に繋がっている。排泄を拒否される方には、時間を空けたり、職員を変えたり、気分が変わってから声をかけたりと工夫し支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄に関する記録から日々の排便状況や水分摂取量を把握し、オリゴ糖や、乳酸菌の摂取を促し、毎日の運動や体操、散歩の機会を作るよう努め、主治医との相談で下剤等を使い、個々に応じた対応をとっています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調確認後、一人約30分程度の入浴時間を設けています。あらかじめこちらで順番を決めていますが、希望があったら順番を変えるなど調整しています。全介助の方には二人対応で、看取りの方には清拭でと個々に応じた支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活リズムやペースを把握し、活動と休息の促しをしています。起床時間はその時々で違う対応がとれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	それぞれの処方箋をファイリングし、すぐにわかるようにしています。内服薬の変更があった時には、考えられる副作用を主治医に聞き、職員全体で周知するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居前の生活習慣や趣味等を把握し、運動や脳トレ、食事作りや洗濯たたみ等それぞれに合う支援ができるよう努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症全般が広がっている為、積極的な外出は控えていますが、毎日の散歩に加え、外での面会を行っています。家族や友人と近隣を散歩したり、ベンチ等でゆっくりした時間がとれるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にはホーム立替で支払いをしています。本人や家族の希望がある方や、持つことで安心される方は家族の同意の元所持していただき、見守るよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があればいつでも家族や友人と電話できるよう支援しています。タブレットを使用したテレビ電話も用意しています。毎年年賀状を出せるよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間で、それぞれの関係性を把握し、リラックスし落ち着いた生活が送れるよう食席を決め、居心地よく過ごせるよう努めています。温湿度チェックを行いながら、感染対策として換気も行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビやソファ、テーブルや椅子等の配置に気を配り、共有空間の中で一人になれる空間ができるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、新しいものではなく、使い慣れた馴染みのある物を持っていただく様お願いしている。入居前の空間と遜色ないよう、本人にとって居心地のいい場所になるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	毎日手すり等の消毒、導線や車椅子のチェックを行い、それぞれの出来る事を安全に出来るよう支援しています。		

2023年度

事業所名 グループホーム いずみ別荘2

作成日： 2023年 12月 18日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の食品備蓄品、緊急用具の周知確認が避難訓練の時だけになっている。	全職員がわかりやすく把握できるよう、リストを作成する。	災害時にスムーズな災害対応ができるよう、食品備蓄品や緊急用具などをわかりやすくリスト可し各フロアに掲示する。	3ヶ月
2	4	運営推進会議参加へのお便りに関して、参加の窓口を広げ、より多くの方と意見交換することでよりよい施設運営ができるのではないかと。	参加へのお願い、お便りの幅を広げ、他業種、同業種にも積極的に参加のお願いをする。	コロナ5類に伴い、他業種や同業種への交流を再開し、会議参加へのお願い、お互いの会議を行き来できる関係性を構築していく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月